

Coffee Market Report

January 2026



INTERNATIONAL
COFFEE
ORGANIZATION

I-CIPは緩やかな下降傾向にあり、2.6%下落し、 月末には急落して終了した

エグゼクティブ・サマリー - 世界のコーヒー市場（2026年1月）

ICO複合指標価格は、2026年1月に平均296.89セントとなり、2025年12月から2.6%低下した。

2026年1月のコーヒー価格は概ねレンジ内の推移に留まり、市場に明確な方向性を与える材料が欠如していた状況を反映していた。価格水準は、生産者による積極的な売りを誘発するにはやや低すぎた一方で、農家が一定の余裕を持って市場に関与し続けるには十分に高い水準であった。このような価格環境のもとで、取引は秩序立って行われ、月を通じてボラティリティも比較的低い水準にとどまった。

しかし、月末には、ブラジル主要コーヒー生産地域であるミナスジェライスにおける降雨量増加のニュースを受け、市場が将来供給に対する懸念の一部後退を好感して下落して取引を終えた。

- コロンビアマイルド及びアザーマイルドの価格は、2026年1月に2025年12月比でそれぞれ2.8%、4.5%下落し、平均371.59セント及び363.94セントとなった。
- ブラジルナチュラルは2026年1月に3.3%縮小し343.77セントとなった。同じ月に、ロブスタは1.0%上昇し192.52セントとなった。

2024/25コーヒー年度の収穫による供給を背景に、**2025年12月の生豆輸出は引き続き増加した。**

世界の生豆輸出は2025年12月に約1,015万袋に達し、前年同月比で9.2%増加した。4グループの成長率はまちまちであり、2グループが増加、2グループが減少した。

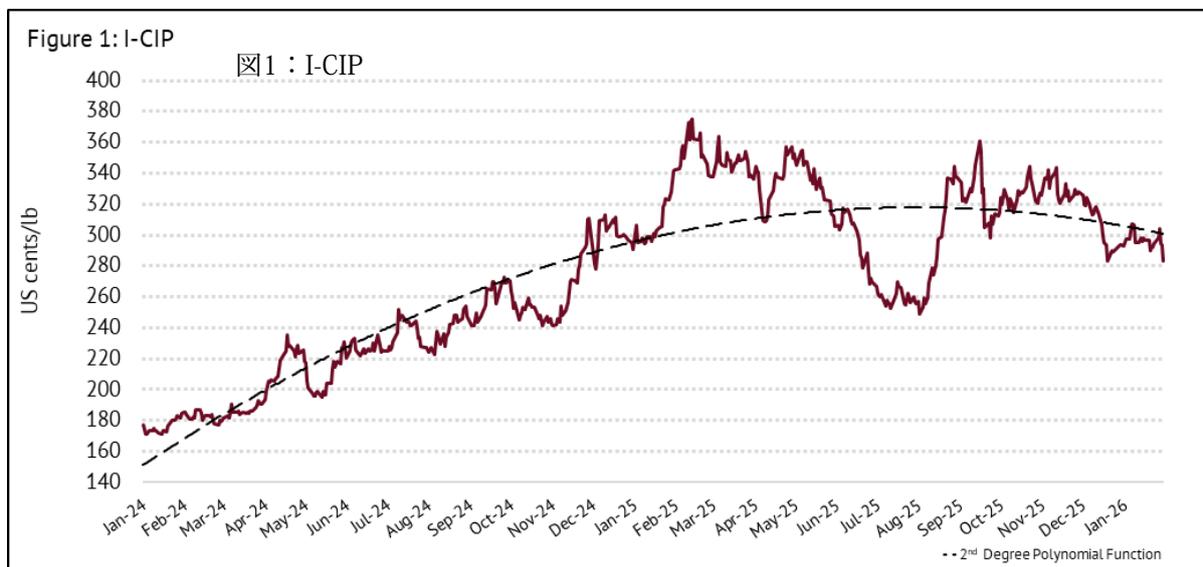
- ロブスタの輸出は、2024年12月の約356万袋から2025年12月には約450万袋へと26.5%増加した。
- コロンビアマイルドの輸出は、2024年12月の約138万袋から2025年12月には約111万袋へと19.4%減少した。
- アザーマイルドの輸出は、2024年12月の約95万袋から2025年12月には約153万袋へと61.7%増加した。
- ブラジルナチュラルの輸出は、2024年12月の約342万袋から2025年12月には約301万袋へと11.9%減少した。
- アラビカの生豆輸出全体に占めるシェアは、2024/25コーヒー年度と2025/26コーヒー年度の最初の3カ月を比較すると、67.4%から64.1%へ低下した。

4地域のうち3地域で輸出が拡大し、南米のみが減少した。

- 南米の輸出は、2024年12月の約547万袋から2025年12月には約465万袋へと15.0%減少した。
- アジア・オセアニアの輸出は、2024年12月の約372万袋から2025年12月には約515万袋へと38.4%増加した。
- アフリカの輸出は、2024年12月の約116万袋から2025年12月には約132万袋へと13.3%増加した。
- メキシコ・中米の輸出は、2024年12月の約45万袋から2025年12月には約82万袋へと81.3%増加した。

生豆価格

ICO複合指標価格は、2026年1月に平均296.89セントとなり、2025年12月比で2.6%低下した。2026年1月のコーヒー価格は概ねレンジ内の推移となり、市場に明確な方向性を与える材料が欠如していた状況を反映していた。価格水準は、生産者による積極的な売りを誘発するにはやや低すぎた一方で、農家が一定の余裕を持って市場に参加し続けるには十分に高かった。このような環境のもとで、取引は秩序立って行われ、月を通じてボラティリティも比較的強く抑えられた。しかし、月末には下落して取引を終えた。



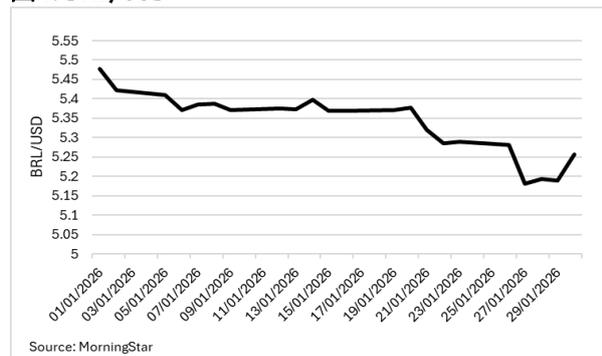
上昇局面

1月6日前後に見られた約3.2%の価格上昇は、その後、一定期間にわたり高止まりした水準が続く展開となった。この動きは、ブラジルレアル（BRL）の対米ドル高（図I）を含むテクニカル要因およびマクロ要因に一部起因するものと解釈される。

国際コーヒー契約や取引は米ドル建てで行われる一方、輸出業者・農家への支払いは現地通貨建てで行われるため、米ドルと供給国通貨との間には負の相関関係が存在する。したがって、現地通貨が米ドルに対して上昇すると、現地通貨建てでの受取額が減少することになり、輸出業者や農家が収入減を回避しようとする中で、国際コーヒー価格に上昇圧力がかかる可能性が生じる。

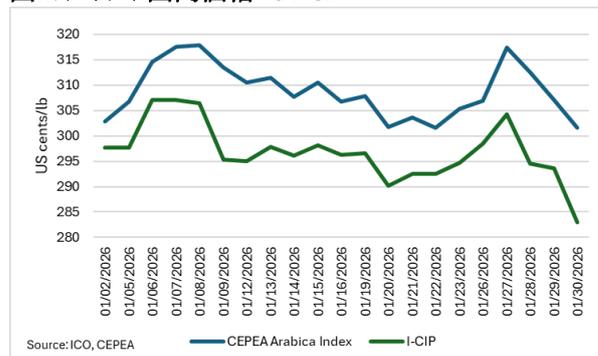
同時に、ブラジル国内価格は、先端応用経済研究センター（CEPEA）の指数が国際指標を上回って推移していること（図II）に反映されるように、農家に対し輸出よりも国内市場への販売を優先するインセンティブを与えた。名目価格は歴史的な高水準でありながらも、ブラジルの農家は依然として売りに慎重な姿勢を崩さず、足元供給がタイトであるとの認識を強める結果となり、生産者による戦略的行動を一定程度助長した。

図I: BRL/USD



出典：MorningStar

図II: ブラジル国内価格 vs I-CIP



出典：ICO、CEPEA CEPEAアラビカ指数
•ICO複合指標価格

下落局面

ICO複合指標価格は1月の大半でレンジ内にとどまったが、月末にかけて下落し、1月27日の304.17セントから1月30日の283.02セントへと低下した。この下落は、主要コーヒー生産地域であるブラジルのミナスジェライス州で降雨量が増加したとのニュースを受けて、将来の作柄見通しが改善したことが引き金になったとみられる。

価格要因

1月の大半において、市場には明確な方向性を与える「決定的な」材料は欠如していたが、要因自体が存在しなかったわけではない。プラス要因とマイナス要因が互いに相殺し合うことで、ICO複合指標価格の動きとしては中立的な結果となった。

プラス要因

・ 在庫

認証在庫は依然として歴史的に低い水準にあり、5年平均の約半分程度にとどまっている（図5）。これにより、総じて供給タイト感が強まり、ICO複合指標価格を高位に維持する一因となっている。

・ 需要動向

焙煎業者の調達姿勢は依然として主として短期カバレッジが中心であり、多くの買い手が必要に応じて随時購入するスタンスを続けている。絶対水準としての価格が高止まりしているため、買い手は高値のうちに先々までのカバレッジを行うことに慎重であり、必要であれば将来より安くコーヒーを調達できる可能性を見込んでいる。この状況は、先物市場のバックワーデーションに明確に反映されており、近い期限の供給タイト感が継続していること、そして即時供給に対するプレミアムが一段と強まっていることを示している。

バックワーデーションとは、商品や資産のスポット価格が将来受け渡し価格を上回り、先物曲線が逆転する市場状態を指す。この状態は通常、即時需要の高まり、供給不足、あるいは地政学リスクなどを示唆し、トレーダーが即時受け渡しにプレミアムを支払う状況を生み出す。この構造は在庫保有を抑制し、近い期限の価格を押し上げる方向に作用し続けている。

マイナス要因:

・ 物流・海上輸送

物流面では、特に中東情勢に関連する部分において状況の改善が徐々に進んだ。2025年10月10日にイエメンのフーシ派との停戦合意が成立して以降、新たな攻撃は報告されていない。2026年1月12日には、ある大手海運会社が、船舶によるバブ・エル・マンデブ海峡および紅海の通航を再開したと発表し、スエズ運河を経由する通常ルートへの回帰の可能性を示した。これはあくまで漸進的なプロセスはあるものの、アフリカ東岸、アジア、および中米の一部から東方へ向かうコーヒー船荷について、アフリカ南端を迂回する必要性が低下することで、輸送時間が短縮される可能性がある。時間の経過とともに、これは海上輸送費に下押し圧力をかけるとともに、「海上輸送中」のコーヒーの量を減少させ、消費地での短期的な供給可能量を改善し、消費側の認証在庫の増加につながる可能性がある。

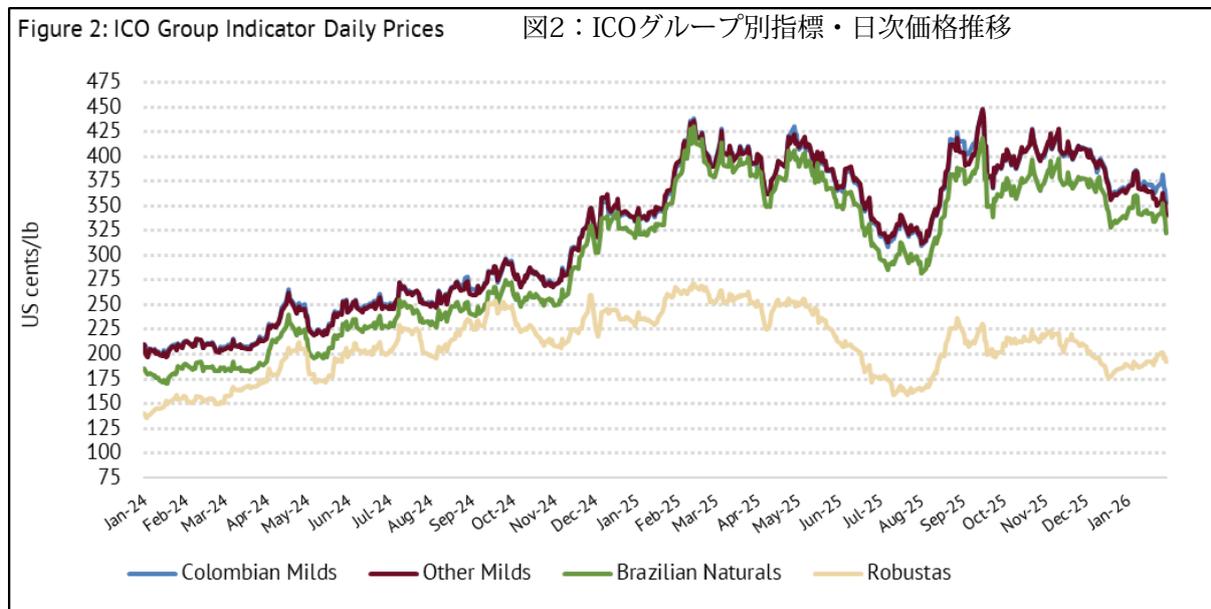
・ 季節要因

最後に、1月特有の季節要因——現物の取引フローの鈍化や慎重な買い姿勢——も価格を支える方向に作用した。流動性が薄く、売り手が限られる状況であったためである。

コロンビアマイルド及びアザーマイルドの価格は、2026年1月に2025年12月比でそれぞれ2.8%、4.5%下落し、平均371.59セント及び363.94セントとなった。ブラジルナチュラルは2026年1月に3.3%縮小し343.77セントとなった。同じ月に、ロブスタは1.0%上昇し192.52セントとなった。ロンドンのインターコンチネンタル取引所（ICE）における価格は0.8%上昇し180.23セントとなった一方、ニューヨークICE市場の価格は3.7%低下し334.99セントとなった。

2025年12月から2026年1月にかけて、コロンビア・マイルドとその他マイルドの価格差は1.18米セント／ポンドから7.65米セント／ポンドへ拡大した。コロンビア・マイルドとブラジル・ナチュラルの価格差は3.3%増の27.83米セント／ポンドとなった。

コロンビアマイルドとロブスタの価格差は、2025年12月から2026年1月にかけて6.6%縮小し、179.08セントとなった。一方で、アザーマイルドとブラジルナチュラル、およびアザーマイルドとロブスタの価格差は、それぞれ21.7%、10.1%縮小し、20.18セントおよび171.43セントとなった。ブラジルナチュラルとロブスタの価格差は、2026年1月に8.3%縮小し151.25セントとなった。



ロンドンとニューヨークの先物市場間のアービトラージは、2026年1月に8.4%縮小し154.75セントとなった。

図3: ニューヨークとロンドン先物市場間のアービトラージ

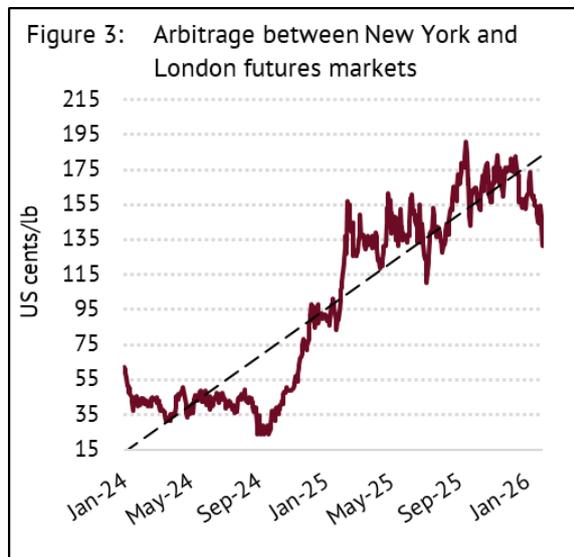
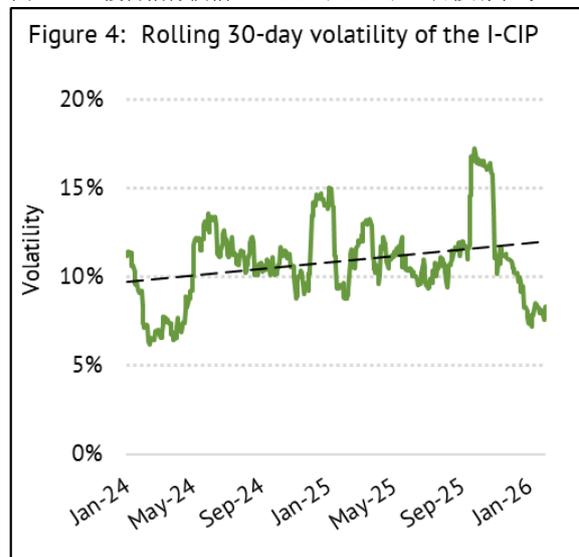
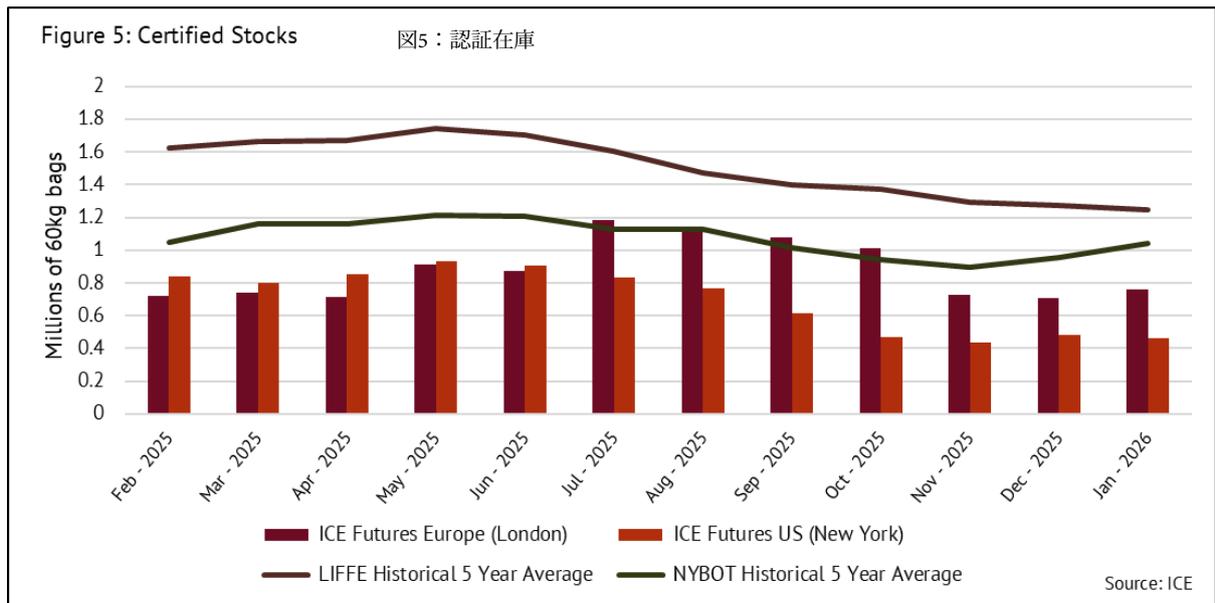


図4: ICO複合指標価格のボラティリティ30日移動平均



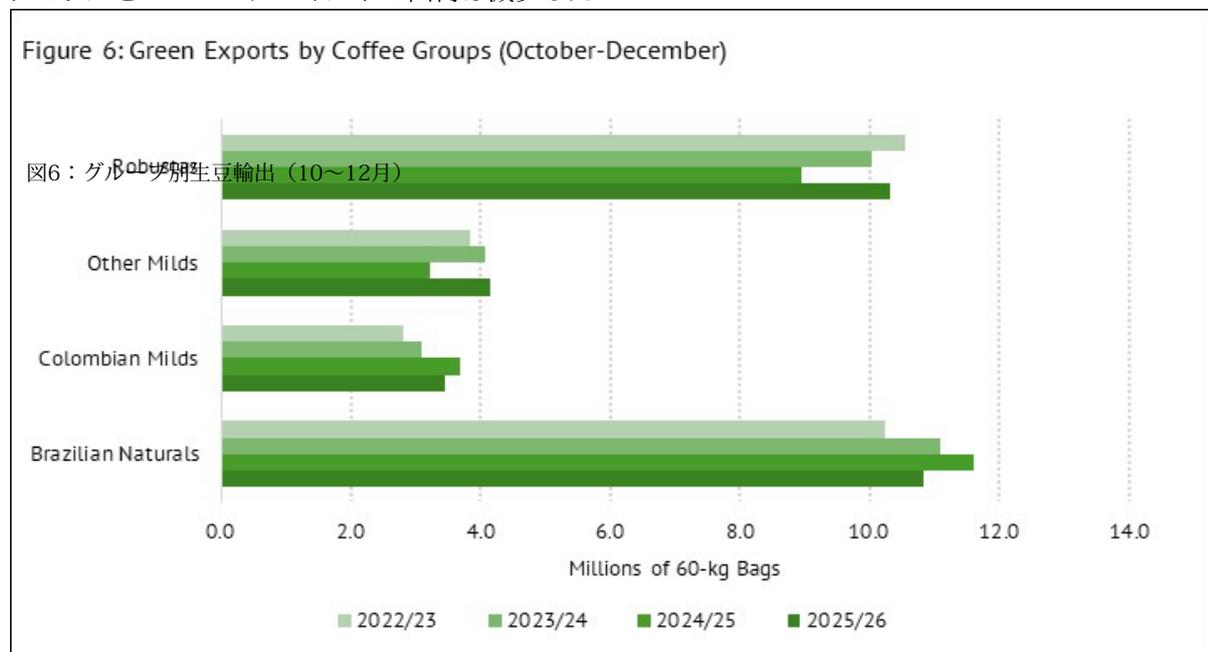
ICO複合指標価格の日中ボラティリティは、2025年12月と比べて1.5ポイント低下し、2026年1月の平均は8.1%となった。コロンビアマイルドおよびアザーマイルドのボラティリティも同様の傾向を示し、それぞれ8.5%および8.7%に低下した。一方、ブラジルナチュラルのボラティリティは、前月比0.6ポイント低下し、2026年1月には10.4%となった。ロブスタのボラティリティは7.8%に低下した。ニューヨークおよびロンドン先物市場においては、ボラティリティはそれぞれ9.3%および7.8%となり、2025年12月比でそれぞれ1.8ポイント、3.9ポイント低下した。



ロンドンにおけるロブスタの認証在庫は、2025年12月から2026年1月にかけて2.7%減少し、月末時点で約71万袋となった。これとは対照的に、米国におけるアラビカの認証在庫は増加し、2025年12月比9.7%増の約48万袋となった（詳しくは「プラス要因」を参照）。

コーヒーグループ別輸出 - 生豆

2025年12月の世界の生豆輸出は、約1,015万袋となり、2024年12月の約930万袋と比べて9.2%増加した。4グループの動向はまちまちで、アザーマイルドとロブスタの輸出が増加する一方、ブラジルナチュラルとコロンビアマイルドの出荷は減少した



ロブスタの生豆輸出は、2024年12月の約356万袋から2025年12月には約450万袋へと26.5%増加した。主因はベトナムであり、同国の出荷は31.1%増の約272万袋となった。インドネシアとウガンダもプラス寄与し、輸出はそれぞれ58.4%、50.6%増加した。これらの伸びは一部、ブラジルのロブスタ輸出の減少により相殺された。ブラジルのロブスタ輸出は、2025年12月に51.8%減少し約22万袋となった。総じて、このパターンは2024/25コーヒー年度に見られたロブスタの動向と整合的であり、

ブラジルの出荷減少とインドネシア・ウガンダ・ベトナムからの輸出増加という構図は、2024/25 コーヒー年度を特徴づけるロブスタのトレンドと一致している。ウガンダの伸びは構造的なものであり、2023/24 コーヒー年度半ば以降、輸出は持続的な上昇トレンドに乗っている。同国の2024/25年の出荷は過去最高の約732万袋に達し、生産増、高い国際コーヒー価格、在庫取り崩しの増加によって支えられた。ウガンダは2030年までに生産2,000万袋の公式目標を掲げている。

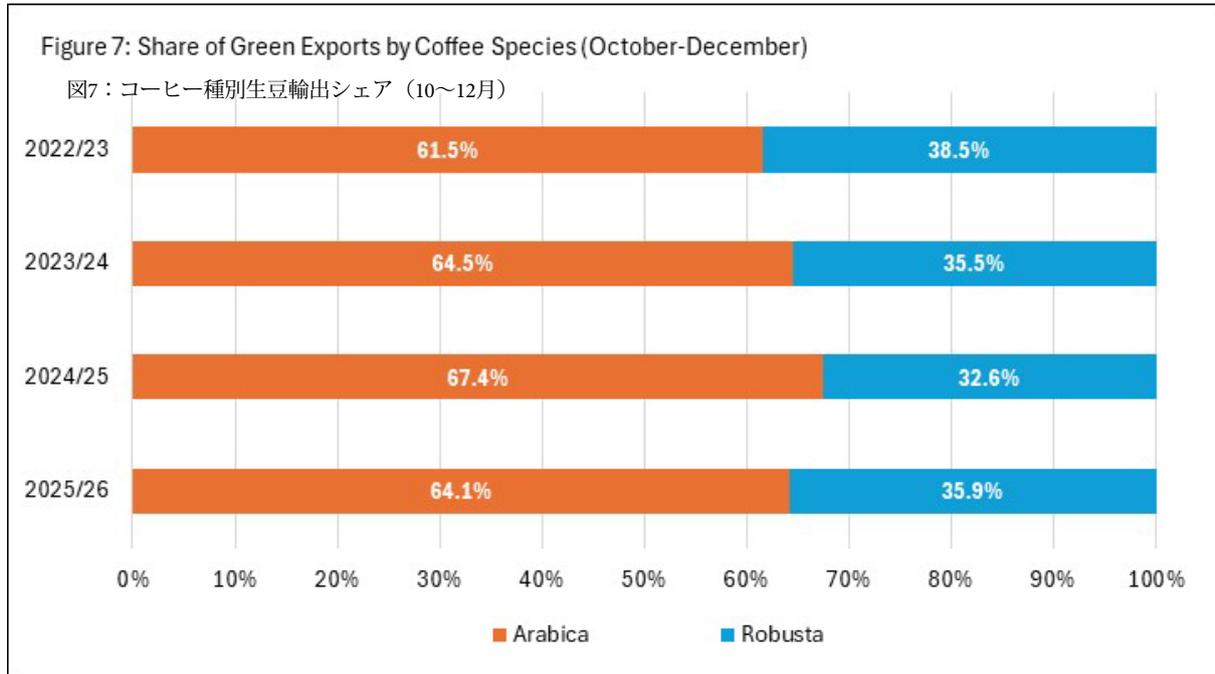
これに対し、ベトナムとブラジルの場合、前年からの急激な伸び・減少は主として平常化を反映したものであり、構造的な変化を意味するものではない（詳細は「地域別輸出 - 全形態のコーヒー」を参照）。

コロンビアマイルドの輸出は、2024年12月の約138万袋から2025年12月には約111万袋へと19.4%減少した。これは、25カ月連続の拡大に続く2カ月連続のマイナス成長となり、2025年12月には3つの原産国すべてからの輸出が減少した。コロンビアの輸出は、2024年12月の約123万袋から2025年12月には約100万袋へと19.3%減少したが、2024年12月の水準は過去8年間で最高の12月輸出量であった。更に、2024/25 コーヒー年度において同国は約1,239万袋を出荷し、観測史上6番目に大きいボリュームとなっている。このことは、現時点で生産・輸出能力の上限に近づいている、あるいは到達している可能性を示唆しており、将来の投資動向に応じて変化しうるものの、コロンビアマイルドの輸出が2桁減少となったこと自体は、必ずしも驚くべきことではない。

2025年12月には、タンザニアのコロンビアマイルド輸出が25.9%減少し、これは11月に記録した31.5%の減少に続くものであった。同国は顕著な隔年結果（表作と裏作）の影響を受ける産地であり、2024/25 コーヒー年度は「表作」に当たり、出荷量は約51万袋と、前年度の約45万袋から14.2%増加した。したがって、2025年11月と12月に記録されたマイナス成長は、統計上のベース効果を反映したものと解釈される。

アザーマイルドの出荷は、2024年12月の約95万袋から2025年12月には約153万袋へと61.7%増加した。グループ全体の2桁成長を牽引した主な要因は、ホンジュラス、ニカラグア、ペルーであり、それぞれの輸出は2025年12月に215.0%、133.3%、62.1%増加した。中米2カ国の3桁成長は、2024/25および2025/26 コーヒー年度の収穫開始タイミングに関するベース効果を反映している（詳細は「地域別輸出 - 全形態のコーヒー」を参照）。ペルーの2桁増は、同国固有の顕著な隔年結果によるものであり、当該コーヒー年度が「表作」に当たることを反映している。ペルーの2024年12月の出荷は約24万袋と2014年（約13万袋）以来、12月としては最も低い水準であった一方、2025年12月のアザーマイルド輸出は約39万袋に達した。

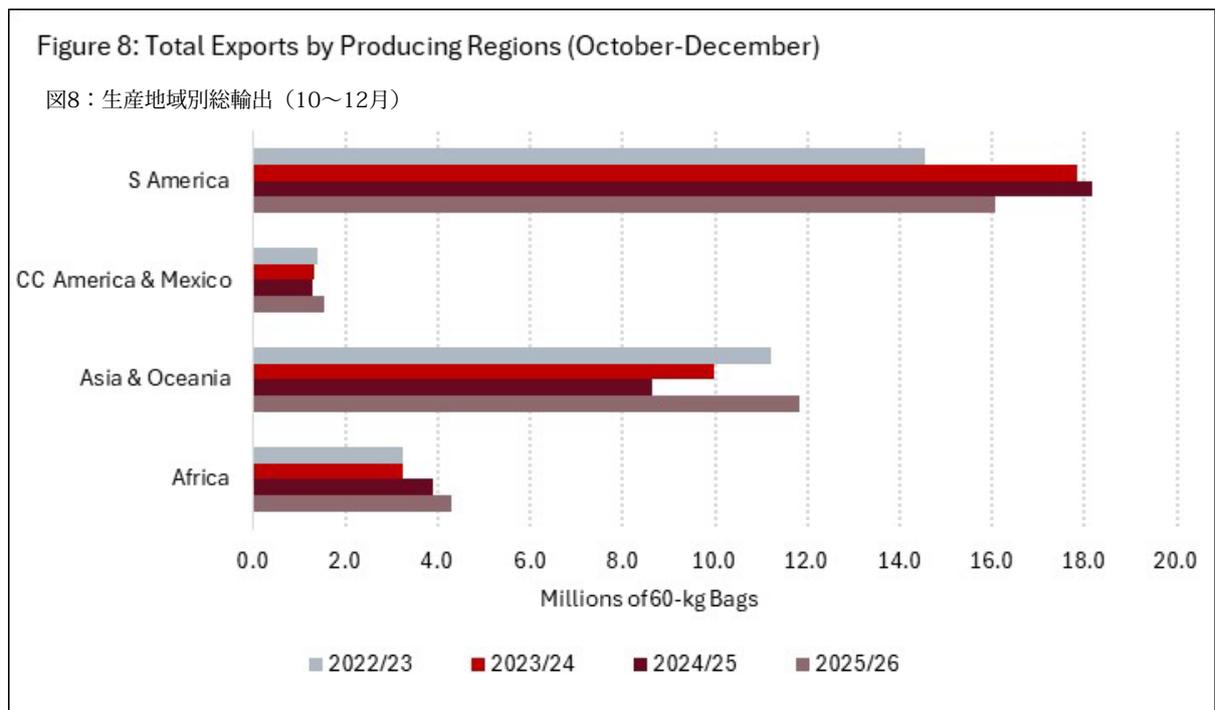
ブラジルナチュラルの生豆輸出は、2024年12月の約342万袋から2025年12月には約301万袋へと11.9%減少した。ブラジルナチュラルは、2025年12月に10カ月連続のマイナス成長を記録したが、その主因はブラジルであり、同国の輸出は1年前の約294万袋から11.1%減少し約261万袋となった。2020/21から2024/25 コーヒー年度の期間において、ブラジルは同グループ輸出の平均85.3%を占めており、そのパフォーマンスが全体トレンドを左右する決定的要因となっている。足元の落ち込みは、ブラジルのアラビカ生産のサイクル（表作・裏作）の影響、2023/24年に記録的な「表作」の輸出（前年比21.7%増）を経験したことに伴うベース効果、そしておそらく2025年に導入された米国の追加関税の影響を反映している。このサイクルの影響により、2024/25 コーヒー年度におけるブラジルのブラジルナチュラル輸出に占めるシェアは81.6%まで低下し、前年から4.1ポイント失われた。このシェアの大半はエチオピアとインドネシアに移り、それぞれ3.2ポイント、0.5ポイントを獲得した。



アラビカ全体の輸出は、2024年12月の約574万袋から2025年12月には約565万袋へと1.5%減少した。その結果、2025/26コーヒー年度最初の3か月における生豆輸出総量に占めるアラビカのシェアは、前年同期間の67.4%から64.1%へと低下した。

地域別輸出 - 全形態のコーヒー

全形態のコーヒー世界輸出は、2025年12月に約1,194万袋となり、2024年12月の約1,081万袋と比べて10.5%増加した。4地域のうち3地域で輸出量が拡大し、南米のみが減少した。



アジア・オセアニアからの全形態コーヒー輸出は、2024年12月の約372万袋から2025年12月には約515万袋へと38.4%増加した。同地域の2桁成長を牽引した主因はベトナムであり、同国の輸出は1年前の約264万袋から29.7%増の約343万袋となった。ベトナムの2025年12月における2桁成長は、主としてベース効果によるものである。特にロブスタについて、2024年の収穫開始が遅れ、10月第2週に始まったと報告されている。さらに、生産者が生豆を輸出市場に持ち込むペースも遅かったとみられる。これらの要因により、2024/25コーヒー年度の初期数カ月における供給のフルな市場投入が遅れた。その結果、2024年12月の輸出は約264万袋と、2021～2023年12月の平均約324万袋と比べて低い水準となった。

インドとインドネシアも同地域の2桁成長を支え、両国合計の輸出は、1年前の約97万袋から61.1%増の約157万袋となった。2025/26コーヒー年度の最初の3カ月において、両国の総輸出は32.6%増加し2023/24コーヒー年度に記録した年間23.2%の伸びの上に積み上がった。2024/25コーヒー年度の出荷は約1,680万袋に達し、前年の約1,363万袋から増加した。

アフリカからの全形態コーヒー輸出は、2024年12月の約116万袋から2025年12月には約132万袋へと13.3%増加した。12月の拡大を主導したのはウガンダであり、同国の輸出は1年前の約41万袋から52.5%増の推計約63万袋となった。ウガンダの輸出は2023/24コーヒー年度半ば以降、急峻な上昇トレンドにあり、2024/25コーヒー年度には初めて約700～800万袋のレンジを突破し、約826万袋に達した。この伸びは、生産増、高い国際コーヒー価格、ならびに在庫取り崩しの増加によって支えられている。

2025年12月、南米からの全形態コーヒー輸出は、2024年12月の約547万袋から15.0%減少し約465万袋となった。南米は、2025年12月に14カ月連続のマイナス成長を記録したが、その直前には16カ月連続のプラス成長を経験していた。足元の減少は主としてブラジルに起因し、同国の総輸出は1年前の約385万袋から18.5%減少し約314万袋となった。

ブラジルは、ベース効果とインドネシア・ベトナムからの供給正常化の影響を受けている。特に、2023/24コーヒー年度には国際ロブスタ市場で供給が不足し、同国のグリーンロブスタ輸出は約937万袋と、2018/19～2022/23年度5カ年平均の約352万袋を大きく上回る水準となっていた。2024/25コーヒー年度における全形態コーヒー輸出は約5,010万袋と、5カ年平均（2018/19～2022/23年度）の約4,092万袋と比べて35.1%増加した。インドネシアおよびベトナムからの供給が2024/25および2025/26コーヒー年度にかけて平常水準へ回帰したことを踏まえると、ブラジル、ひいては南米全体の輸出が減少に転じることは必然的であったといえる。

コロンビアの輸出は、2024年12月の約131万袋から2025年12月には約106万袋へと18.9%減少した。2023年12月から2025年9月までの間、コロンビアの輸出は平均14.3%のペースで増加し、1桁台の伸びにとどまった月は5カ月、マイナス成長となった月は1カ月のみであった。2024/25コーヒー年度の総出荷は約1,346万袋に達し、観測史上3番目に大きい水準となった。2025/26コーヒー年度の開始後2カ月間における低成長（平均1.5%）と、2024/25年度の記録的な出荷水準を踏まえると、同国は現時点の能力上限に近づきつつある、あるいは到達している可能性があると考えられるが、これは今後の投資に応じて変化しうる。とはいえ、2025年12月に見られた大幅な減少幅はベース効果によるものであり、2024年12月の輸出が約131万袋と、2021/22～2023/24コーヒー年度における12月平均約110万袋を19.4%上回る高水準であったことに起因する。

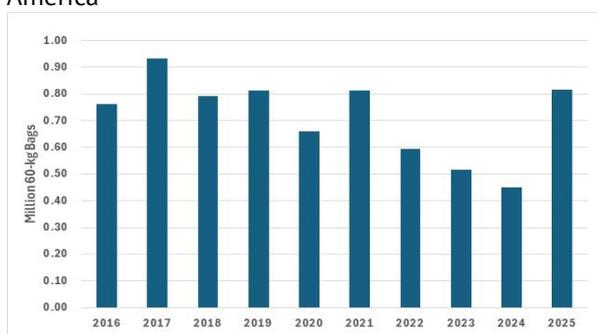
2025年12月、メキシコ・中米からの全形態コーヒー輸出は、2024年12月の約45万袋から約82万袋へと81.3%増加した。同地域の成長を主導したのはホンジュラスであり、同国の輸出は2024年12月の約9万袋から215.0%増の約27万袋となった。さらに、ニカラグアとメキシコもこれを下支えし、両国合計の輸出は約21万袋から70.3%増の約36万袋へと増加した。

同地域——とりわけホンジュラスおよびメキシコ——において、2024年12月の輸出量は過去10年で最も少ない12月出荷となり、この点はニカラグアのみが例外であった（図III～VI）。メキシコ・中米全体としても、2024年12月の約45万袋という輸出量は、記録上2番目に少ない12月のボリュームであった。

2024年1月から6月中旬にかけて、地域の大半で干ばつが広範囲に及び、特に5月には激しい熱波を伴い、開花に悪影響を与えたと報告されている。その後、2024年7月以降は、熱帯暴風雨サラの影響もあり、11月を含めて降雨量が過剰となり、実の成熟プロセスが遅延し、2024/25コーヒー年度の収穫開始は通常より2カ月遅い2024年12月となった。通常、収穫開始から最初の出荷まで2～3カ月のタイムラグがあるため、2024年12月の輸出は主として2023/24コーヒー年度の供給減少を反映したものであった。これに対し、2025/26コーヒー年度の同地域の収穫は、報告によれば例年どおり10月に開始されており、2025年12月の輸出はこの供給環境の改善を反映している。

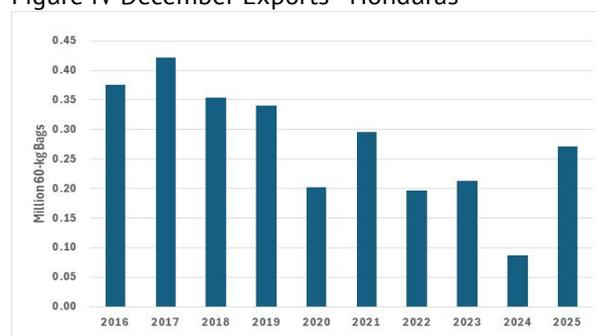
図III：12月輸出量 - メキシコ・中米

Figure III December Exports - Mexico & Central America



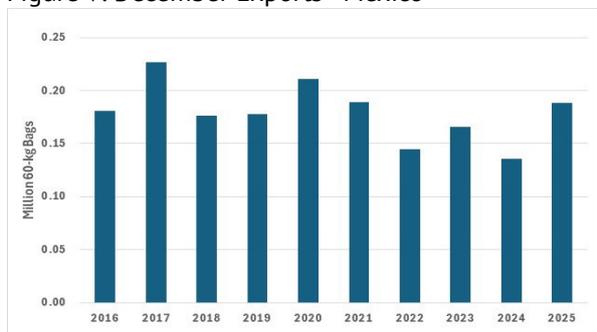
図IV：12月輸出量 - ホンジュラス

Figure IV December Exports - Honduras



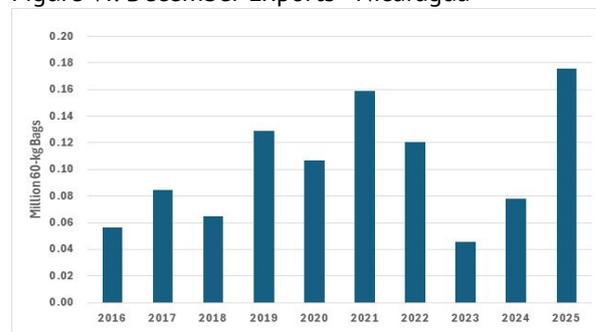
図V：12月輸出量 - メキシコ

Figure V: December Exports - Mexico



図VI：12月輸出量 - ニカラグア

Figure VI: December Exports - Nicaragua

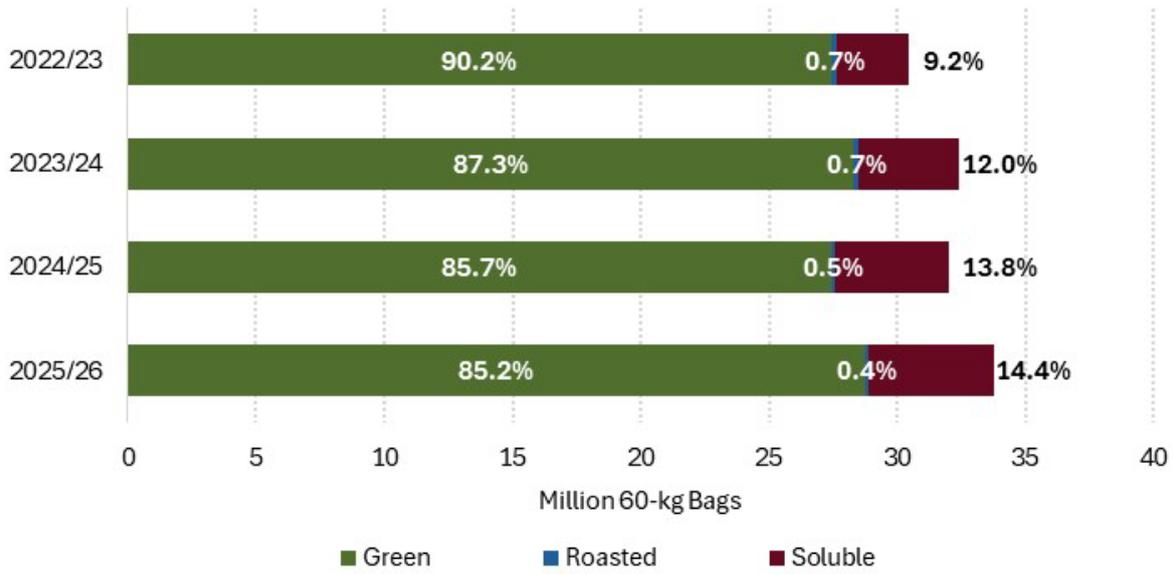


形態別コーヒー輸出

生豆は依然として最大の輸出形態であり、2025/26コーヒー年度最初の3カ月において総輸出量の85.2%を占めた。これに対し、ソリュブルと焙煎コーヒーの比率は、それぞれ14.4%および0.4%であった。

Figure 9: Total Exports by Form (October-December)

図9：形態別総輸出（10～12月）



ソリュブルコーヒーの総輸出は、2024年12月の約146万袋から2025年12月には約174万袋へと195%増加した。2025年12月におけるソリュブルコーヒー最大の輸出国はベトナム、ブラジル、インドネシアであり、それぞれ約66万袋、28万袋、27万袋を出荷した。

焙煎豆の輸出は2025年12月に140%減少し、2024年12月の約44万袋から約47万袋となった。

表1：ICO日次指標価格および先物価格(US cents/lb)

	ICO Composite	Colombian Milds	Other Milds	Brazilian Naturals	Robustas	New York*	London*
Monthly averages							
Feb-25	354.32	410.64	409.48	401.10	263.08	388.18	253.48
Mar-25	347.85	404.97	404.02	392.48	257.61	382.75	247.63
Apr-25	335.76	394.14	392.84	378.27	246.39	370.37	235.69
May-25	334.41	395.59	397.84	380.02	237.76	368.21	224.63
Jun-25	295.06	360.08	363.16	338.53	196.21	329.56	183.21
Jul-25	259.31	322.37	325.50	297.04	167.19	289.17	153.43
Aug-25	297.05	366.72	366.32	336.88	199.13	328.57	181.43
Sep-25	324.62	403.77	400.21	374.91	210.85	366.31	197.56
Oct-25	326.38	403.25	403.79	373.47	215.06	366.00	202.16
Nov-25	330.44	408.75	410.31	380.17	214.91	373.57	202.33
Dec-25	304.68	382.32	381.14	355.38	190.53	347.71	178.87
Jan-26	296.89	371.59	363.94	343.77	192.52	334.99	180.23
% change between Dec-25 and Jan-26							
	-2.6%	-2.8%	-4.5%	-3.3%	1.0%	-3.7%	0.8%
Volatility (%)							
Dec-25	9.6%	10.2%	9.8%	11.0%	10.9%	11.1%	11.6%
Jan-26	8.1%	8.5%	8.7%	10.4%	7.8%	9.3%	7.8%
Variation between Dec-25 and Jan-26							
	-1.5	-1.7	-1.1	-0.6	-3.1	-1.8	-3.8

* Average prices for 2nd and 3rd positions

*Volatility variation is rounded

表2：価格差(US cents/lb)

	Colombian Milds	Colombian Milds	Colombian Milds	Other Milds	Other Milds	Brazilian Naturals	New York*
	Other Milds	Brazilian Naturals	Robustas	Brazilian Naturals	Robustas	Robustas	London*
Feb-25	1.16	9.54	147.56	8.37	146.40	138.03	134.70
Mar-25	0.95	12.49	147.37	11.54	146.42	134.87	135.11
Apr-25	1.30	15.87	147.75	14.57	146.44	131.87	134.67
May-25	-2.25	15.57	157.83	17.83	160.09	142.26	143.58
Jun-25	-3.08	21.55	163.86	24.63	166.95	142.32	146.35
Jul-25	-3.13	25.32	155.17	28.45	158.31	129.85	135.74
Aug-25	0.41	29.84	167.60	29.43	167.19	137.76	147.14
Sep-25	3.56	28.86	192.92	25.30	189.36	164.07	168.75
Oct-25	-0.54	29.78	188.19	30.32	188.73	158.41	163.84
Nov-25	-1.56	28.59	193.84	30.14	195.40	165.26	171.24
Dec-25	1.18	26.95	191.80	25.76	190.61	164.85	168.85
Jan-26	7.65	27.83	179.08	20.18	171.43	151.25	154.75
% change between Dec-25 and Jan-26							
	546.0%	3.3%	-6.6%	-21.7%	-10.1%	-8.2%	-8.3%

* Average prices for 2nd and 3rd positions

表3：世界の需給バランス

Coffee year commencing	2021	2022	2023	2024	% change 2023/24
PRODUCTION	165,092	165,785	168,707	177,513	5.2%
Arabica	91,737	93,876	97,674	102,065	4.5%
Robusta	73,356	71,910	71,033	75,448	6.2%
Africa	19,589	18,865	21,173	22,782	7.6%
Asia & Oceania	51,063	49,275	46,035	49,637	7.8%
Caribbean, Mexico & Central America	18,053	18,214	17,161	18,304	6.7%
South America	76,388	79,431	84,338	86,790	2.9%
CONSUMPTION	170,500	176,855	172,578	175,071	1.4%
Exporting countries	54,438	55,664	56,344	57,742	2.5%
Importing countries (Coffee Years)	116,062	121,191	116,233	117,329	0.9%
Africa	12,677	12,446	11,566	12,145	5.0%
Asia & Oceania	42,422	43,534	44,163	47,447	7.4%
Caribbean, Mexico & Central America	5,752	5,980	5,957	6,172	3.6%
Europe	52,350	56,001	54,178	53,552	-1.2%
North America	30,228	31,324	28,694	27,745	-3.3%
South America	27,071	27,570	28,020	28,010	0.0%
BALANCE	-5,407	-11,070	-3,871	2,443	
*preliminary estimates	0.00	0.00	0.00	0.00	

Table 4: Total exports by exporting countries 表4：輸出国の総輸出货量

	Dec-24	Dec-25	% change	Year to Date Coffee Year		
				2024/25	2025/26	% change
TOTAL	10,808	11,940	10.5%	31,991	33,758	5.5%
Arabicas	6,309	6,296	-0.2%	20,460	20,407	-0.3%
<i>Colombian Milds</i>	1,454	1,180	-18.8%	3,945	3,690	-6.5%
<i>Other Milds</i>	1,176	1,829	55.5%	4,016	5,008	24.7%
<i>Brazilian Naturals</i>	3,678	3,287	-10.6%	12,499	11,709	-6.3%
Robustas	4,499	5,644	25.4%	11,532	13,351	15.8%

In thousand 60-kg bags

Monthly trade statistics are available upon subscription

表5：ニューヨークおよびロンドン先物市場の認証在庫

	Feb-25	Mar-25	Apr-25	May-25	Jun-25	Jul-25	Aug-25	Sep-25	Oct-25	Nov-25	Dec-25	Jan-26
New York	0.84	0.80	0.85	0.93	0.91	0.83	0.77	0.62	0.47	0.44	0.48	0.46
London	0.72	0.74	0.71	0.92	0.87	1.18	1.13	1.08	1.01	0.73	0.71	0.76

In million 60-kg bags